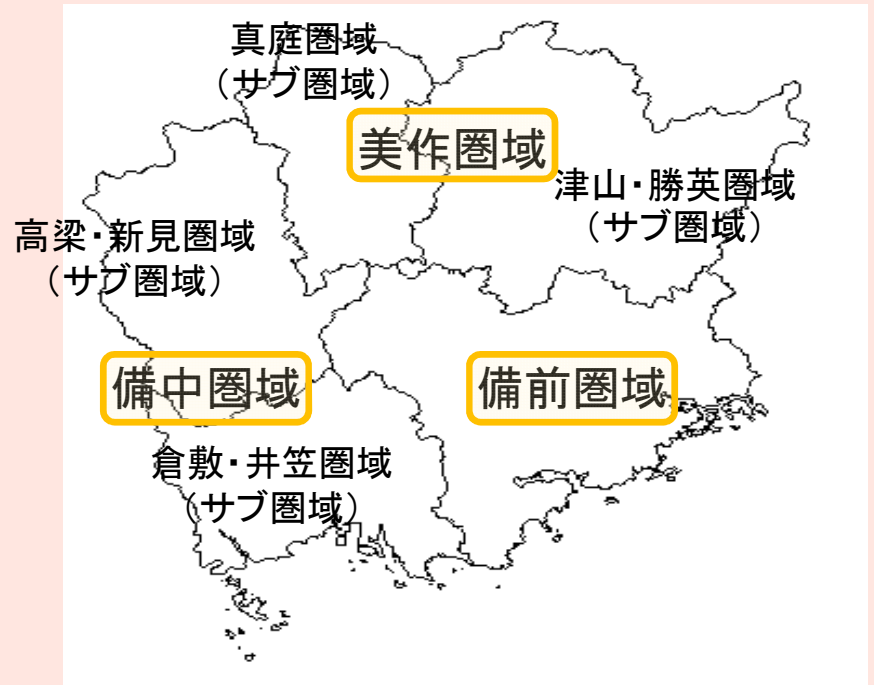


岡山県の地域移行推進 に関する取組



1 県の基礎情報

岡山県



障害保健福祉圏域ベース

取組内容

【精神障害者の地域移行に関する取組】

【人材育成に関する取組】

→次スライド参照。

基本情報

圏域数	5カ所 (サブ圏域含む)
人口	1,945,276人 (H22年国勢調査)
精神科病院の数	23病院 (H25年4月1日現在)
精神科病床数	5,602床 (H25年4月1日現在)
入院精神障害者数 (H24年)	3か月未満：1,036人 (22.1%)
	3か月以上1年未満：878人 (18.7%)
	1年以上：2,777人 (59.2%)
退院率 (H24年)	入院後3か月時点：64%
	入院後1年時点：90%
相談支援事業所数 (H27年10月現在)	一般相談事業所数：62箇所
	特定相談事業所数：122箇所
障害福祉サービスの利用状況 (H26年度；障害等の区別なし)	地域移行支援サービス：5人
	地域定着支援サービス：194人
保健所	県保健所・支所9カ所、政令市保健所1カ所、中核市保健所1カ所
自立支援協議会	(人材育成について議論)：専門部会なし (活動頻度)：-
	(精神障害者の地域移行について議論)：専門部会なし (活動頻度)：-
精神保健福祉審議会	ここ数年開催実績なし

※H28年2月作成

地域移行・地域定着支援にかかる取組（H26年度）①

【精神障害者の地域移行に関する取組】

- 地域移行・地域定着支援促進にかかる研修会（県、各圏域）
- 地域移行推進にかかる協議会（各圏域）
- 事例検討・連絡会等（各圏域）
- 精神障害者地域移行推進検討委員会（県）
- アウトリーチ事業支援者連絡会議（県）
- 市町村地域自立支援協議会事務局連絡会議（県）
- 地域移行促進センター事業（県）
試験外泊事業、ホステル事業、24時間電話相談事業
- 入居支援ネットワークによる支援（県）
- ピアサポーター派遣事業（県）
- アウトリーチ事業（県）
- 早期退院・地域定着のための連携強化事業（県）
退院環境整備事業、地域援助事業者参加促進事業
- 精神科病院入院患者社会復帰促進事業（家賃保証支援事業）（県）

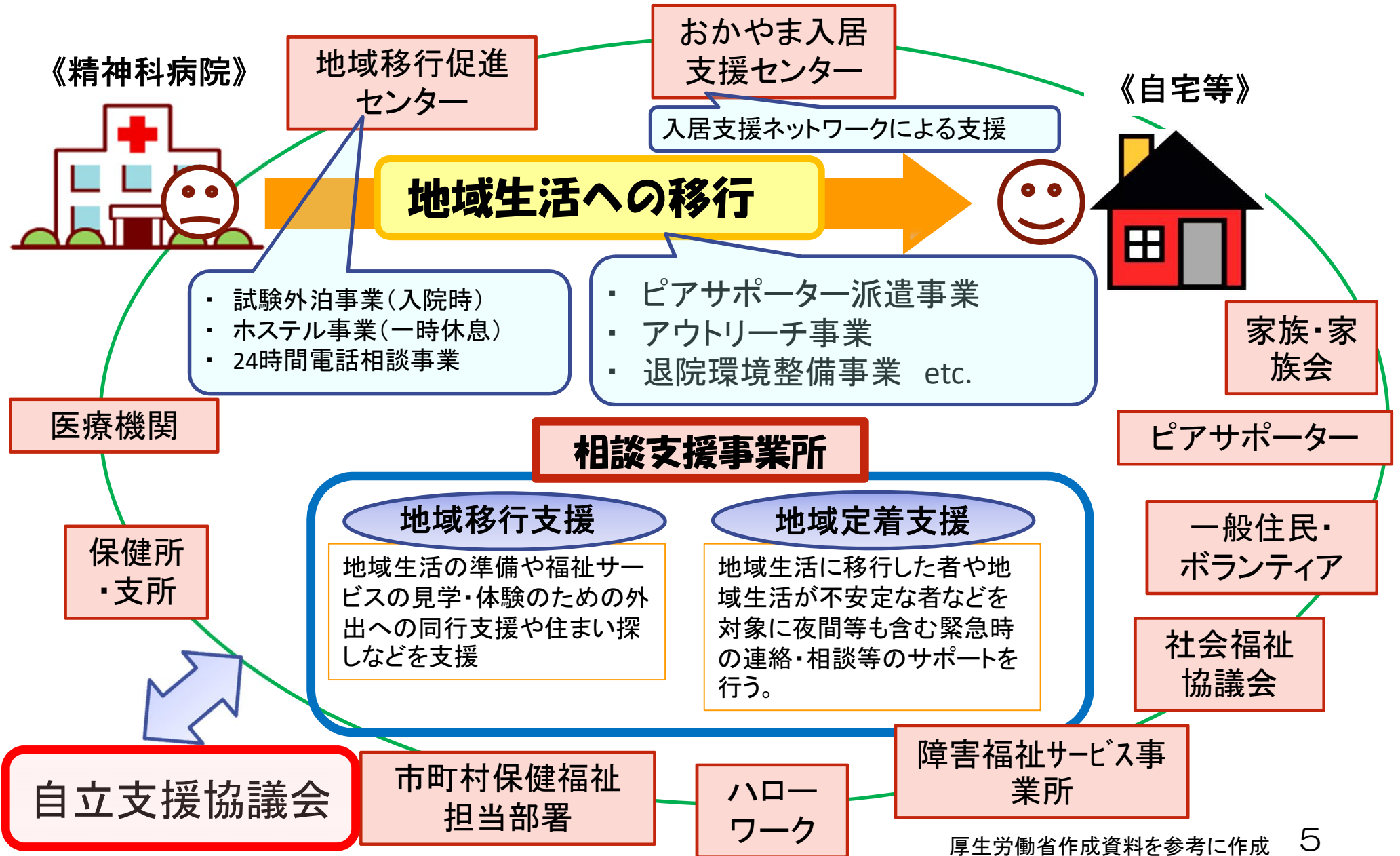
地域移行・地域定着支援にかかる取組（H26年度）②

【人材育成に関する取組】

- 前スライド掲載の地域移行・地域定着支援に関する各種研修、事例検討、連絡会等を通じた人材育成（県、各圏域）
- ピアサポーター養成研修（県）
- 個別支援事例を通じた人材育成

- 相談支援従事者初任者研修・現任研修（県）
- サービス管理責任者養成研修（県） 等

岡山県における地域移行・地域定着のイメージ図



2 都道府県としての精神障害者の地域移行及び人材育成の取組①

地域移行支援に関する研修会（県）

目的：地域移行支援・地域定着支援の円滑な実施

〈平成24年度〉

- 対象：医療機関担当者、一般相談支援事業所で地域移行支援に従事する者、行政機関等 参加者：160名

- 研修内容

講演「精神科病院の現状と地域移行支援の必要性」

講師：NPO法人十勝障がい者支援センター理事長（NPO法人日本相談支援専門員協会代表理事）門屋充郎氏

制度説明

地域移行支援プロセス理解のための実践紹介

グループワーク「事例をもとに、地域移行に向けた支援内容を検討」

- 障害福祉担当課、精神保健担当課及び精神保健福祉センターで研修の企画、立案を行った。

- 主催：障害福祉担当課

行政主導

2 都道府県としての精神障害者の地域移行及び人材育成の取組②

地域移行支援に関する研修会（県）

目的：地域移行・地域定着支援の利用促進、制度及び関係機関の連携と役割分担について理解を深める

〈平成25年度〉

- 対象：医療機関担当者、一般相談支援事業所で地域移行支援に従事する者、行政機関等 参加者：114名

- 研修内容

制度説明

パネルディスカッション「地域移行を進めるために」

パネリスト：医師、看護師、相談支援専門員、保健所保健師、ピアサポーター

グループワーク「課題整理シート、取り組みシートの作成」

- 相談支援専門員にも相談しながら障害福祉担当課、精神保健担当課及び精神保健福祉センターで研修の企画、立案を行った。

- 主催：障害福祉担当課

行政主導、プレ実行委員会形式

2 都道府県としての精神障害者の地域移行及び人材育成の取組③

地域移行支援に関する研修会（県）

目的: 支援者の資質向上、連携体制の強化

〈平成26年度〉

- 対象：医療機関、相談支援事業所等で地域移行支援に従事する者、行政機関等 参加者：105名

• 研修内容

精神保健福祉法の一部改正に伴う制度説明

講演「私たちが退院支援のためにできること

—退院阻害要因の解決に向けて—

講師：相談支援事業所ふあっと 施設長 矢田朱美氏

グループワーク「私たちが退院支援のためにできること」

- 相談支援専門員協会、障害福祉担当課、精神保健担当課、精神保健福祉センター等で研修の企画、立案を行った。

- 主催：精神保健福祉センター、県相談支援専門員協会

官民協働、実行委員会形式

2 都道府県としての精神障害者の地域移行及び人材育成の取組④

地域移行支援に関する研修会（県）

目的：支援者の資質向上、連携体制の強化

〈平成27年度〉

・対象：医療機関（看護職を含む多職種）、ピアサポート団体、相談支援事業所、行政機関、その他地域移行支援に関心のある者 参加者：160名

・研修内容

行政報告「岡山県の退院支援の状況」

講演「ストレングスモデルによるケースマネジメント」

講師：早稲田大学人間科学学術院 教授 田中英樹氏

ワークショップ「利用者をストレングスの視点から捉え直してみよう」

・病院PSW（中核的人材育成研修参加者；県PSW協会所属）、相談支援専門員協会（中核的人材育成研修参加者含む）、障害福祉担当課、精神保健担当課、精神保健福祉センターで研修の企画、立案を行った。

・主催：精神保健福祉センター、県相談支援専門員協会

・協力：県PSW協会

官民協働、実行委員会形式

2-1 倉敷・井笠圏域での取組①

○精神科病院Aにおける地域移行に関する取組 その1

- 1) 平成25年11月～ピアサポートグループの協力を得て音楽交流会開始。
〔精保センター：ピアサポートグループと病院のつなぎ役を担った〕

前段として…

- ・平成20年度～県保健所が中心となって地域・病院交流事業を開催（年1回）。
 - ・並行して、地域移行推進員（精保センター所属）も同病院で稼働しており、退院困難とされていた事例が退院→病棟看護師等の意識が変化。上記のような経緯により、病院側に外部からの支援者を受け入れる下地ができつつあった。
- その後、病院、県保健所、市保健所、ピアサポートグループ、精保センターでの打ち合わせを経て、上記交流会開始。

2-1 倉敷・井笠圏域での取組②

○精神科病院Aにおける地域移行に関する取組 その2

交流会の効果

- ・病院全体がたいへんオープンになった。
- ・外出したいという患者さんが増えてきた。
- ・職員が病院外への関心を持てるようになった。退院支援を進めていこうという意識が芽生えてきた。
- ・同病院において地域移行にかかる連絡会（＝座談会）が始まった。

2) 平成26年1月～地域移行にかかる連絡会開始。

当初、同病院（PSW中心）、ピアサポートグループ、市保健所、市障害福祉課、県保健所、精保センターが参加。後に地域活動支援センター、相談支援事業所なども加わり、病院スタッフの参加者も増加した（Ns、OT）。

交流会の振り返り、各機関・団体等からの話題、情報提供を含め、地域移行に関する話し合いを定期的に行っている。

2-1 倉敷・井笠圏域での取組③

○精神科病院Bにおける地域移行に関する取組 その1

- 1) 平成24年12月～ピアサポートグループの協力を得て交流会開始。
〔精保センター：ピアサポートグループと病院のつなぎ役を担った〕

- ・交流会の前に準備会（打ち合わせ会）を開催している。前回の振り返りと今回の企画の話し合い。

同病院（PSW中心）、ピアサポートグループ、相談支援事業所、市保健所、市障害福祉課、県保健所、精保センターが参加。後にB型事業所、地域活動支援センター、大学の先生なども加わり、また、病院から看護職、OTも参加するようになった。

前段として…

病院の運営主体が代わり、病院側も地域との交流を望んでいた。

2-1 倉敷・井笠圏域での取組④

○精神科病院Bにおける地域移行に関する取組 その2

交流会の効果

- 病院の様子が変わった。
「よそ者」→「対等な関係」
- 参加者が変わった。
「緊張と指示待ち」→「明るい表情と意思表示」
- 支援者が増えた。
- ピアサポートグループのメンバーにも変化が生まれた。
「緊張と不安」→「自信と充実感を得てスキルアップ」
- 同病院において地域移行にかかる連絡会が始まった。

- 2) 平成25年11月～地域移行にかかる連絡会（＝地域移行検討会）開始。
病院PSWと前スライド記載の地域スタッフが参加。入院患者の地域移行を目指して事例検討を重ねている。

2-1 倉敷・井笠圏域での取組⑤

○ K地域自立支援協議会精神部会における「地域移行連絡会」

上記A,Bの個別病院での取組を受けて、K地域の自立支援協議会精神部会が、地域移行にかかる連絡会（「地域移行連絡会」）を開催。長期入院者への地域移行支援のあり方について検討することとなった。

平成27年度 3回実施。

参加者：K地域内精神科病院、ピアサポートグループ、相談支援事業所、行政機関等

効果

- K地域内にある各病院の地域移行に関する取組をみなで共有。
- K地域内にある病院Cでも交流会が開催されることとなった。



4 都道府県としての来年度への抱負

地域移行の推進及び人材育成について

- ・引き続き、スライド3,4掲載の取組を進めていく（市町村支援含む）。
- ・地域移行支援に関する研修会（県）の企画、立案に携わる実行委員会（**中核的人材育成研修参加者含む**）を実働部隊として、地域移行に関する取組を体系的に進めていく。

具体的な進め方については、今後、実行委員会にて協議予定。

※まずは、地域移行の推進に当たり、どのようなサービスがどれくらい必要なのか、実態を客観的に把握しておく必要がある。

→**地域移行ニーズ(対象者)、福祉サービスのニーズ量、支援者一人当たりの適正支援提供利用者数 等々。**

5 次年度の戦略

長期目標

入院期間1年以上の長期入院患者数を平成29年6月末時点で、平成24年6月末時点の2,777人から500人以上減少させる。（第4期岡山県障害福祉計画より）

短期（次年度）目標

- 引き続き、スライド3,4掲載の取組を進めていく（市町村支援含む）。
- 地域移行支援に関する研修会（県）の企画、立案に携わる実行委員会を実働部隊として、地域移行に関する取組を体系的に進めていく。
- 地域移行ニーズ、福祉サービスのニーズ量、支援者一人当たりの適正支援提供利用者数 等々の把握？

